

国立大学法人化が研究成果に与えた影響の推定

菊地雄太¹

概要

国立大学法人化によって、国立大学の運営に、「民間的経営」、「財政的自立」、「競争」という概念が導入され、国立大学の研究者には、研究よりも社会からの需要の多い教育、社会との連携といったような基礎的研究ではなく応用的な研究、そして構造的変化に伴う多大な組織運営業務や競争的資金獲得に関わる業務が求められるようになってきており、研究の質に対して負の影響を与えていると言われている。そこで本研究では、各大学の研究の質の経年的変化を分析できる指標を作り、構造的変化の生じなかった私立大学を対象群として **Difference-in-Differences** 推定を行うことによって、法人化による研究を巡る環境の変化が研究成果に与えた影響を定量的に分析した。その結果、法人化は各研究分野に対してそれぞれ異なる影響を与えたであろうということが示された。

医学と生命科学については、法人化は研究成果に対してマイナスの影響を与えたということが示された。その一方で、物理学と経済学については、法人化はプラスの影響を与えたことが示された。化学は研究成果という側面で上位の大学はプラスの影響を受けていて、下位の大学はマイナスの影響を受けていることが示された。数学に関しては影響を受けていないことが示された。

¹ 東京大学大学院経済学研究科所属 email: ykikuchi.amethyst@gmail.com